

# 週刊センターニュース No.79



第79号(2005年10月3日)毎週月曜日発行  
発行: 金沢大学 大学教育開発・支援センター  
URL: [http://www.kanazawa-u.ac.jp/faculty/daikyou\\_rche/index.htm](http://www.kanazawa-u.ac.jp/faculty/daikyou_rche/index.htm)

## 共同学習会のご案内

第89回 日時: 10月6日(木) 14:30~16:00

会場: 金沢大学角間キャンパス総合教育棟2階大会議室

テーマ: 中教審答申「我が国の高等教育の将来像」を読む

趣旨: 当センター教員4名で、今年1月に出された「高等教育の将来像」答申をどう読むかについて議論する。

第90回 日時: 10月13日(木) 16:20~17:50

会場: 金沢大学角間キャンパス総合教育棟2階大会議室

発表者: 堀井 祐介(大学教育開発・支援センター 教育支援システム研究部門)

テーマ: 「高大接続のための大学入試シンポジウム - 高大接続とAO入試 -」参加報告

趣旨: AO入試とAO入試で入学した学生の追跡調査を研究テーマとして筑波大学で

開催されたシンポジウム参加報告。現在AO入試導入を検討中の金沢大学にとって参考となる研究発表が数多くなされた。

## 九州大学における来年度からの教養カリキュラム

9月28日、九州大学高等教育総合開発研究センターを訪問し、九州大学の学府・研究院制度と大学院、学部のカリキュラムとの関係について聞き取り調査をおこなった。この際、来年度から実施が予定されている新しい教養カリキュラムの概要についても情報を得たので、簡単に紹介したい。一つの特徴は、コア科目の設定である。共通コア科目、コアセミナー、文系コア科目、理系コア科目からなる。文系コア科目とは、文系の学部生に対するコア科目という意味ではなく、理系学生、文系学生双方に文系分野のコアを設定、提供する科目である。理系コア科目も同様であり、例えば、理系コア科目に含まれる物理学や化学は文系学生を念頭においた内容について現在検討されているとのことであつた。さらに、従来の理系学生に対する基礎科目に相当する科目区分として、文系学生に対する文系基礎科目が新設される。従来の基礎科目は、理系基礎科目となる。理系基礎科目では、従来の物理、化学、生物など個別の基礎実験が統合されて自然科学総合実験として、理系全学生に対して必須となる。東北大学や東京大学と同じ取組である。一方、文系基礎科目では、現代社会・現代史が文系全学生に対して必須となる。さらに、従来は選択であつた少人数セミナーが全学必須となるとのことであつた。(文責 大学教育研究開発部門 西山)

## 第1回リメディアル教育学会参加報告

10月2日、第1回リメディアル教育学会に参加した。リメディアル教育とは、高校までの学習内容のやり直し教育を指し、大学全入時代を間近に控え、多くの大学でその必要性が認識されつつある。本学においては、ゆとり教育の教育課程で教育されてきた学生が来年度より入学してくることに対応して、工学部で物理、数学の基礎科目の内容や補充クラスについて検討されている。リメディアル教育において最も期待されているのが e-learning の利用である。今回の学会においても、理工系科目の

リメディアル教育を意図した e-learning を用いた教材やシステム開発の取組が報告された。本学においては、リメディアル教育というよりもむしろ、大学教育への IT 技術の活用という観点から、総合メディア基盤センターを中心とした IT 推進プログラムが進行中で、通常の授業への e-learning の導入が積極的に進められている。当センターもこのプログラムには堀井を中心に関わっている。今回の学会においては理工系の大学授業への e-learning を用いた先進的な取組例として、総合メディア基盤センターの鈴木恒雄教授がシンポジウムで報告された。また、千歳科学技術大学の高大連携プログラムを適用した e-learning 運用システムは、多くの大学が注目しており、今回のシンポジウムでも小松川浩先生が報告されたが、その内容は本学の IT 推進プログラムの学習会において今年 5 月にすでに紹介されている。IT 教材作成ばかりでなく e-learning が絡む高大連携にも学生を積極的に参加させることによって、安定的なリメディアル教育システムが実現しており、さらに学生自身に対するそのような活動による大きな教育効果を生み出している。

このようにリメディアル教育について、理工系の科目についてはある程度その概要を理解していたつもりであったが、今回の学会で取り上げられていた一つのテーマは、国語（学会では日本語力と呼ばれていた。）のリメディアル教育であった。メディア教育センターの調査によればここ数年大学生の日本語力が低下しているとのことであった。（どのような調査が行われたかは現時点で把握していない。）パネラーとして日本工業大学、東京農工大学、札幌大学、筑紫女子学園大学、千葉商科大学の先生方が報告された。国語のリメディアル教育を大学で正規の授業として行うことは物理的に難しいと思われるし、e-learning 教材が紹介されたわけでもない。必要性を感じた先生方が様々な工夫を持って取り組んでおられた。札幌大学の篠崎恒夫先生は、経営学がご専門であるが、学生のレポートの不出来から、国語のリメディアル教育の必要性を感じ、授業を行っておられるとのことであった。現在現実には起こっている経営問題を新聞記事から取り上げ、解説を行うとともに、その新聞記事に関する国語力を問う問題を作成し学生に解かせるというスタイルである。

大学ではレポートや卒論研究、研究発表などを通して徐々に国語力が養われていくものと認識していたが、大学入学後の早い段階で国語のリメディアル教育が必要になるときが来るのかもしれない。また、札幌大学の篠崎先生のお取組のように、例えばレポート課題について国語力のチェックを意識したケアが今まで以上に必要であると感じた。（文責 大学教育研究開発部門 西山）

## センターからのお願い

センターニュースで取り上げてほしいテーマを募集します。また、センターニュースを読んだのご感想や当センターへの要望などをメールにてお寄せください。info-rche@ge.kanazawa-u.ac.jpまでお願いいたします。